



どごよりも、相馬がやるべきじゃないか
松川浦漁港 菊地基文



相馬にしかない、日本一うまいものを
子供たちに食べさせたい
大野村農園 菊地将兵



あすびとProgram

20年先の未来を生きる福島で、
自分の未来が見えてくる



あすびとProgram

2011年の東日本大震災以降、課題先進地域として20年後の日本全体の問題に直面してきた福島。そんな福島にあって、課題解決先進地域として明日の福島を創ろうとする人々。特に食べるものの本質にある農業や漁業に新しい価値を創り出している若い世代が福島には存在する。

あすびと

それは自分の人生を充実させた
延長線上に日本の明日を創る人

プログラム開催地 福島県相馬市/南相馬市

対象 高校生

Day1 被災地を知ろう

2011年3月11日の大震災の爪痕が残る被災地に
身を置き、大震災を自分事として体感する。

12:00	南相馬ソーラー・アグリパーク ウェルカムランチ
13:00	被災地を見つめるフィールドワーク
17:30	バーベキュー交流会
20:30	宿泊先

Day2 逆境から生まれた志と前進 ① 見習い漁師になる

好漁場为名を馳せた福島県沖での漁業は、震災後「試験操業」という形で出港日が制限されているが、安全な魚を流通させるための基盤作りでもある。困難な状況の中でも、挑戦を続ける漁師たちから、福島の漁業の今と前進するための志の源泉を感じ取る。

4:30	松川浦漁港 出港の見学、朝食 競りの見学・漁師見習い体験 昼食（相馬産の獲れたて海産物） 漁師・菊地基文さんインタビュー
12:00	12:00
13:30	13:30
18:00	18:00

Day3 逆境から生まれた志と前進 ② 見習い農家になる

海と山が隣り合う相馬でしかできない「循環型の農業」に挑戦する菊地将兵さん。魚のアラや薪が卵や野菜に代わる「物々交換」でめぐる地域資源の循環モデルを体感し、食の本質や、貨幣価値を超えた地域コミュニティの在り方を実感する。

9:00	大野村農園（相馬市） 鶏舎と畑の見学・農家見習い体験
12:00	12:00
18:00	18:00

Day4 未来の自分を描く

自分の未来の「志」はなにか、
3日間の体験を通じて自分と対話し、発表する。

9:00	南相馬ソーラー・アグリパーク 自分を見つめるワークショップ・行動宣言 さよならランチ
12:00	12:00
13:30	13:30

こんな高校生にピッタリ

- ▶ やりたいことが見つからず、モヤモヤしている
- ▶ 何か楽しいこと、ワクワクすることに挑戦したい
- ▶ いろんな仕事、生き方、新しい世界を見てみたい
- ▶ 農業や漁業に触れ、生産の現場を知りたい

プログラム
コーディネーター



半谷 栄寿（はんが いえいじゅ）

一般社団法人あすびと福島 代表理事
1953年南相馬市生まれ、仙台一高・東京大学卒業。元東京電力役員。2011年、原子力事故への責任と地元の復興のため、人材育成を志す。福島県内の高校生が自分の進路を見出すための「高校生あすびと塾」を開講。「高校生が伝えるふくしま食べる通信」を高校生編集部とともに創刊。高校生たちから「熱い人」と言われる。



あすびとプログラムでの放射線の影響

4日間の滞在で0.003mSv（ミリシーベルト）
※成田～大塚の片道フライトでの放射線量と同等
（参考）
・胸部X線撮影：0.02～0.3mSv
・胸部CTスキャン：2.2～12.9mSv